平成 28 年 5 月 26 日　第 2451 号

営農NEWS

トマト栽培の終了後には、ハウスを密閉して蒸し込み処理を徹底し、タバココナジラミが媒介する黄化葉巻病の伝染環を絶ちましょう

トマト黄化葉巻病は、難防除の病害として、トマト産地の中では依然として問題となっています。

本病はタバココナジラミ類（バイオタイプＱおよびＰ）によりウイルスが媒介されるため、**防除対策として　媒介虫を①施設内に侵入させない、②施設内で増殖させない　ことが最も重要**となりますが、あと一つ、伝染環を絶つために③トマトの**栽培が終了した後、生きたまま媒介虫を施設外に逃がさない**ことも重要な対策になります。これは、逃げ出した媒介虫が施設周辺の雑草や野良生えトマトなどに、また、他の施設や露地トマト圃場に侵入してウイルスの温存や増殖を図って生き残り、再び、それらの子孫がトマトを栽培するときに飛び込んでくる可能性が高くなるからです。

トマトの栽培終了後には、この悪い伝染環を断ち切るためにも、下記を参考にして**蒸し込み処理などを徹底し、媒介虫の死滅を図って**ください。

なお、タバココナジラミ類による被害の抑制効果を高めるためには、地域や産地全体が共同で対策にあたることが重要になります。

＜タバココナジラミ類をハウス外に逃がさないために＞

１　トマト栽培中に、タバココナジラミ類の発生量が多い場合は、野外へ飛び出す個体数が多くなることが予想されるため、**栽培が終了するまでには薬剤防除を徹底**してください（表１を参考にしてください）。

２　トマト栽培終了後の蒸し込み作業は、トマトの株元を切断するか又は抜き取った後に、ハウスを密閉して、目安として**ハウス内温度が４０℃を超える期間が連続５日以上持続する**ように管理することが必要です。

表１　トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤（平成 28 年 5 月 25 日現在）

薬　剤　名	対象作物		使用量または希釈倍率	使用時期／使用回数
	トマト	ミニトマト		
ベストガード粒剤※	○	○	5ｇ／培土 1ℓあたり混和	播種時または鉢上げ時／1 回
	○	○	または　1～2ｇ／株　株元処理	育苗期／1 回
	○	○	または　1～2ｇ／株　植穴処理土壌混和	定植時／1 回
	○	○	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ１箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ１冊（30×60cm、使用土壌約 1.5～4.0ℓ）当り 50g 散布	育苗期後半／1 回
ベストガード水溶剤※	○	○	1,000～2,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
ベリマークＳＣ	○		800 倍液を 50ml／株　灌注	育苗期後半～定植当日／1 回
	○		または　400 倍液を 25ml／株　灌注	育苗期後半～定植当日／1 回
スタークル顆粒水溶剤※	○	○	100 倍　ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ１箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ１冊（30×60cm、使用土壌約 1.5～4.0ℓ）当り 0.5ℓ灌注	定植時／1 回
	○	○	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／2 回以内
アニキ乳剤	○	○	1,000～2,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
コロマイト乳剤	○	○	1,500 倍	収穫前日まで／2 回以内
ディアナＳＣ	○	○	2,500 倍	収穫前日まで／2 回以内
エコピタ液剤（気門封鎖型）	○	○	100～200 倍	収穫前日まで／　－
オレート液剤（気門封鎖型）	○	○	100～300 倍	発生初期～収穫前日まで／　－

注）※印の付した薬剤は、ネオニコチノイド系です。同一系統薬剤の連続使用は、避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

全農　JA全農いばらき
生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040